

令和6年玄海町議会定例会6月第2回会議会議録

招 集 年 月 日	令和6年1月5日（金曜日）					
招 集 場 所	玄 海 町 議 会 議 場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開 議	令和6年6月13日午前9時00分			議 長	井 上 正 旦 君
	散 会	令和6年6月13日午前9時31分			議 長	井 上 正 旦 君
応（不応）招議 員及び出席並び に欠席議員 ○ 出 席 × 欠 席 × 不応招 出 席 10名 欠 席 0名	議席 番号	氏 名	出 席 等の別	議席 番号	氏 名	出 席 等の別
	1	谷 丸 直 司 君	○	2	松 本 栄 一 君	○
	3	前 川 和 民 君	○	4	小 山 善 照 君	○
	5	山 口 寛 敏 君	○	6	宮 崎 吉 輝 君	○
	7	池 田 道 夫 君	○	8	上 田 利 治 君	○
	9	岩 下 孝 嗣 君	○	10	井 上 正 旦 君	○
会議録署名議員	9 番	岩 下 孝 嗣 君		8 番	上 田 利 治 君	
地方自治法第 121条第1項に より説明のため 出席した者の職 氏名	町 長	脇 山 伸太郎 君		副 町 長	西 立 也 君	
	教 育 長	岩 崎 一 男 君		総 務 課 長	渡 辺 晴 彦 君	
	防災安全課長	日 高 大 助 君		企画商工課長	熊 本 秀 樹 君	
	住民課長兼会計管理者	中 山 昌 直 君		福祉・介護課長	中 山 ふ み 君	
	こども・ほけん課長	黒 田 佐 織 君		農林水産課長	鶴 田 豊 明 君	
	まちづくり課長	鈴 木 博 之 君		生活環境課長	山 口 三 成 君	
	教 育 課 長	加 納 晴 美 君				
職務のために議 場に参加した者 の氏名	議会事務局長	中 村 大 造		議会事務局書記	渡 辺 健 太	

令和6年玄海町議会定例会6月第2回会議議事日程（第2号）

令和6年6月13日 午前9時開議

日程1 一般質問

令和6年玄海町議会定例会6月第2回会議一般質問通告書

質 問 者	質 問 事 項	答弁を求める者
2番 松本栄一君	1. 高度化通信網構築事業（ローカル5G）について	町 長

午前9時 開議

○議長（井上正旦君）

おはようございます。ただいまの出席議員は10名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、あらかじめお手元に配付しております議事日程表によって御了承方お願いいたします。

日程1 一般質問

○議長（井上正旦君）

日程1. 一般質問を行います。

質問の通告がっておりますので、順次発言を許します。2番松本栄一君。

○2番（松本栄一君）

改めましておはようございます。2番松本です。議長の許可が出ておりますので、一般質問を行います。

今からの日本は、人口減少や地方の過疎化、また消滅危機に至る地方自治体が、2040年には日本の全体の約半数が消滅の可能性があるという日本経済新聞の記事にありました。約1,800市町村の半分の存続が難しくなると予測されています。この記事は約10年前に出されたもので、現在と照らし合わせても、そのレール上に沿った推移であると考えられます。

私はこの状況を踏まえ、私たちの自治体を存続できるように、約900以内の市町村にかじを取っていかなくてはならないと考えます。そのためには、ミクロの観点からマクロの観点に移行しなければなりません。

約四、五十年前にネットワークがあれば、仕事の効率はどうに変わったでしょうか。当時、コンピューターは単体で使う機器であり、高価で一般層には普及していませんでした。しかし今現在、科学技術の発展もありネットワークは世界中に網の目のように張り巡らされ、これを使えば世界中に情報発信したり情報収集が簡単にでき、世界中の人とつながることができます。総務省のホームページに、2040年には今の生産労働力の基準として、日本では約49%が人工知能とロボットを活用した労働力の維持を予測されております。

玄海町では、日本初の高度化通信網構築事業（ローカル5G）を誘致しましたが、町民の理解が難しいと思われまますので、町民が理解しやすいように、まずは説明をお願いいたします。

○議長（井上正旦君）

脇山町長。

○町長（脇山伸太郎君）

改めましておはようございます。

先ほど松本栄一議員のローカル5Gについて町民が理解しやすいように説明してほしいという内容の御質問に対して、御説明する形で御答弁申し上げます。

最近、このローカル5Gもですが、今年から実証実験しますデマンドバスとか、横文字がもう当たり前に使われるような時代になりましたし、DXやGXとかグリーントランスフォーメーション、デジタルトランスフォーメーションも略称とかでもう当たり前になられて、なかなか理解しにくい状況にもなっております。

それから、先ほど質問の中にありましたが、人口減少、過疎化が進んでいるということ、これはもう玄海町は少子・高齢化の中で人口減少も進んでおりますので、そしてまた先ほど申されました消滅可能性の自治体、佐賀県でナンバーワンになっております。そういった自治体にならないようにということで、私もこれまでずっといろいろ子育て政策とか、いろんなことに取り組んでまいったところでございます。

ミクロとマクロの件でも、あとコンピューターもですが、私も電気屋をしてたおかげでコンピューターはいち早く使っておりましたが、これもなかなか普及はしなくて、ウィンドウ

ズ95が出てからだんだん普及して、その当時もまだ役場は使ってらっしゃいませんでしたが、個人個人で買いながら、そして今現在は役場でも皆さんがパソコンを使えなければ役場に入れないような状況になっております。そしてまた、ワードやエクセルも採用時にほとんどの方が使えるような状況になって、なかなか難しい時代ではあるのかなと思っておりますが、若い人は柔軟なだけに、それだけに使いこなしてるんだなと思っております。スマホに関しましてでもですね。

まず、ローカル5Gについて御説明いたします。

まず、5Gとは、携帯電話などで使用される無線通信の第5世代のシステムであり、これまでの4Gと比較して通信速度が上がっただけでなく、より多くの機器が接続できるようになったこと、通信の遅れが極めて少なくなったことといった新たな機能を持つ次世代の無線通信となっております。

では、ローカル5Gとは何かということですが、これもなかなか理解しにくいというか分かりにくいところがあるかと思っております。携帯電話のように不特定多数の方が使える通信ではなく、特定の地域や、自らの建物内や敷地内だけを対象として独占的に使うことのできる無線通信でございます。

ここで、ローカル5Gが独占的に使える無線通信であることによってどのような恩恵があるのかについて、具体的な例を挙げて御説明いたします。

花火大会など多くの方が集まる場所にいる際に、携帯電話のデータ通信速度が遅くなった経験がある方もいらっしゃるかと思います。これは、そのエリア内のデータ通信の容量が決まっている中で、多くの方が一斉にデータ通信を行うことで一人一人の通信速度が低下することによって起こる現象であります。また、災害時とかに電話とかが使えなくなったりインターネットが使えなくなったりするの、一遍に皆さんが使うから容量が足らなくて使えなくなるような、そういった状況でもあるかと思っております。

一方で、先ほど御説明申し上げた独占的に使うことのできる無線通信であるローカル5Gの場合は、このように意図しない要因による通信速度の低下が発生しにくい通信方法でございます。

具体的な活用例といたしましては、AIによる監視カメラがその一つとして挙げられます。AIを活用したカメラで河川の氾濫状況を自動的にお知らせするシステムを使う場合には、常時鮮明な映像をデータ通信し、AIで分析し続けることが必要となります。この場

合、大容量のデータ通信が必要になり、また途中で映像が途切れることがあれば河川の氾濫を検知することができませんが、ローカル5Gを用いることによってこの問題を解決することができます。あくまでも一例ではございますが、このような活用ができるのがローカル5Gの特徴であり、このほかにも雨量データなどの防災情報を詳しく把握できることによって、災害対策体制の強化が期待できます。

なお、補足でございますが、今回の高度化通信網構築事業では、ローカル5GのほかWi-Fiなども併用しながら、これらを活用する企業を町内に誘致し、町内の雇用や経済の活性化を図るとともに町民の生活の利便性の向上を図ってまいります。

先ほど松本議員が質問の中で言われましたように、まず高度化通信網ローカル5Gは今まで自治体を取り扱った先例がありませんので、私たちの取組に対してもなかなか難しいところがありましたし、議会の皆さんにも御理解いただきながら、今後このローカル5Gで町の活性化につなげていきたいと考えているところでございます。

○議長（井上正旦君）

松本栄一君。

○2番（松本栄一君）

今日された説明によって、ある程度の理解をしやすいような形にはなるのかなと思っております。やっぱり実際使ってみないと、皆さんもこういった利用ができるのかとかそういった部分が分かれられないと思います。

非常に最先端の技術を取り入れた形になってくると思いますので、企業誘致には向いています。しかし、その中で町民さんが利用するにはどのような利用方法があるのか、これを少し説明をお願いします。

○議長（井上正旦君）

脇山町長。

○町長（脇山伸太郎君）

町民が利用するにはどのような利用があるのかの御質問に対し、御答弁申し上げます。

このローカル5Gっていうのは先進的な事業でありまして、なかなか住民さんにとってすぐに直結するような事業ではありませんが、例えば一例として、いろいろ産業分野に関しましてのお話をしたいと思っております。

例えば、農畜産業分野におきましては、離れた場所にある機械を操作して草刈りができる

ようになったり、これまでよりも精度の高いカメラやセンサーを使って農地を管理したり、家畜の健康状態を把握したりするという利用が期待されます。水産業分野におきましては、農畜産業同様にカメラやセンサーを使って海面や養殖場の状況を監視することができるようになることで、適切な管理が可能となることが期待されます。

また、近年注目を集めているeスポーツの分野におきましては、インターネットを通じて遠隔地の選手と対戦をすることもできますが、この場合、通信速度が勝敗の要因の一つとなります。通信速度の低下が起きにくいローカル5Gは、eスポーツでも活用が期待されます。

また、唐津青翔高校におきましては、eスポーツやデジタルアートなど先進的な教育を行う特色ある学校づくりに取り組まれております。住んでいる都道府県の枠を超えて自分の興味、関心のあった高校を選択することのできる地域みらい留学の制度を活用して、全国から生徒募集されております。ローカル5Gの活用でeスポーツが盛り上がることによって、唐津青翔高校の魅力向上にもつながるものと考えております。

また、体を動かすリズムゲームなどを行うことで、介護予防や高齢者の生きがいづくり、健康の増進につなげることを目指し、eスポーツの推進に取り組んでいる例もございます。eスポーツは、若い人から高齢者の方まで、いろんな方々の利用の仕方があるところでございます。

また、医療の分野におきましても、遠隔診療での活用が一つの例として挙げられます。これは、自宅にいながらタブレット端末などを通じた映像と音声のやり取りによって医師の問診を受けられるものであります。

このように、様々な分野でローカル5Gなどを活用することによって、各種サービスを充実させることができ、これにより住民の皆様が安全・安心に暮らせるまちづくりにつながるものと考えておるところでございます。

以上です。

○議長（井上正旦君）

松本栄一君。

○2番（松本栄一君）

町民さんが便利になるということは、今までの不便さを解消することにもなっていくますよね。

それにおいて、高度化通信網構築事業といいますと、これは企業誘致の分野にもなってくるということで、企業をメインとした誘致になるんじゃないかなと思っております。その中で、誘致するに当たっては町にも何らかのメリットが必要だと思いますが、その点をお伺いいたします。

○議長（井上正旦君）

脇山町長。

○町長（脇山伸太郎君）

町にはどのようなメリットが生まれるのかの御質問に対し、御答弁申し上げます。

先ほど御答弁申し上げたとおり、今回の高度化通信網構築事業は、ローカル5Gなどを活用する企業を町内に誘致して町内の経済の活性化を図ることと、町民の皆様の生活の利便性の向上を図ることを目指して進めている事業でございます。

町内に多くの企業が進出することで雇用の場が生まれ、そこで働く方々が町内に定住していただく。そうすることによって町のにぎわいが生まれ、町内の経済も活性化していくものと考えております。これが1点目のメリットでございます。

2点目のメリットとしましては、進出した企業がローカル5Gのほか高度化通信網を活用した様々なサービスを展開することで、町民の暮らしがより便利でより豊かになることと考えております。

また、税収の増加という観点からも、工場等の進出で固定資産税の増加が見込まれることもメリットの一つとなりますし、ローカル5Gのコアが値賀中学校、給食センターの跡地のほうに設置されますが、それも企業誘致ではなくてよそからそれを利用するということで、収益事業という形にもなるとございます。

以上です。

○議長（井上正旦君）

松本栄一君。

○2番（松本栄一君）

固定資産税、いろんな面の町の収入も増えてくると見込まれているようです。ぜひ、こういった形で事業を継続していかれるということで、多ければ多いほどそういった税収の部分に関しては上がると思います。しかしながら、既存の企業に対しても、今後継続して事業ができるような支援、いろいろそういった部分の安定性を求める形でいけば、進み過ぎてもあ

まりよくないし、安定させておくべきだと私は思っております。新たな部分の企業さんも現れてくると思いますが、そのときに町長がどういった町の進展が見込まれると思われているのか、その点をお聞きします。

○議長（井上正旦君）

脇山町長。

○町長（脇山伸太郎君）

今後どういった町の進展が見込まれるかの御質問に対し、御答弁申し上げます。

今回の高度化通信網構築事業補助金によるローカル5Gの設置については、値賀第2コミュニティセンターを含めて町内に4つのローカル5Gのアンテナを設置することとなっておりますが、今後この4つのほかに町内各所に設置を進めていった場合、さらなる活用の拡大が見込まれ、町の進展が期待されます。

これからさらに技術革新が進み設備を整えられた場合ではありますが、活用の具体的な例として考えられるものの一つとして、これは大分先進的になるかと思っております。環境にも必要だと思っておりますが、一つとして、ローカル5Gを通じた遠隔医療による外科手術なども挙げられます。これは、医師が手術支援ロボットを操作して遠隔地から手術を行うもので、町内において都市部と同じレベルの手術を受けることが可能となるものです。

このほかにも、ローカル5Gを活用したバスの遠隔型自動運転が実現する可能性があります。既に国内で実証実験が行われている事例があり、技術革新が進みローカル5Gのアンテナが町内各所に整備されれば、商用の自動運転バスが運行されることも考えられます。

町としても、高度化通信網の利活用について補助事業者と連携し、職員を対象にヒアリングを実施しておるところでございます。様々な意見やアイデアが出ておるところでございます。

このように高度化通信網構築事業を進めていくことで、企業の誘致により雇用の場の創出と地域経済の活性化が期待されるとともに、町民の生活の利便性向上につながるものと考えております。

以上でございます。

○議長（井上正旦君）

松本栄一君。

○2番（松本栄一君）

最先端の技術を入れることによって、医療に関しても、無人の運転バスやいろんな様々な

可能性を見いだせるということではありますが、玄海町内には病院も少ないと思います。だから、医療に当たっては、こういった形で一刻も早く進んでほしいと思います。玄海町も高齢の方が多くなっておりますので、こういった形がもっと早くできれば、まだ医療に関して困る人がいなくなるという可能性がもっともっと広がって、さらには唐津に病院に行っている人たちもおられます。その人たちが自宅で医療を受けられると、これは体の負担や経済的負担も考慮できるということにも値すると思います。

この高度化通信網構築事業を進められる中で、雇用の場の創出と地域の経済の活性化、このあたり、町内に多くの企業が進出することで雇用が生まれるということは、企業が来ることでしょうから、現在そういった企業が玄海町に乗り出されていると思いますが、今の実績的な部分をお伺いいたします。

○議長（井上正旦君）

脇山町長。

○町長（脇山伸太郎君）

町内に多くの企業が進出することで雇用の場が生まれるということだが現在の雇用実績はどうなってるかということの御質問に対して、御答弁申し上げます。

また、その前に前段として先ほど地域医療のことについて言われました。玄海町においては、今2診療機関というか医院がありますが、玄海町がずっと存続していくためには医療機関がないところにはなかなか住民さんも安心して住めないということがありますので、町としても今後、私の町長の後のぐらいになるかと思っておりますけれど、医療関係の方たちに存続してもらうような努めは町としてするべきだと私は思っておりますし、それからあとスーパー、買物がなかなかできないような状況、コンビニが幾つか出てきておりますが、住民さんが買物にいつも唐津まで行かなくてはならないというような状況、そういった医療機関とスーパーに関しては、これからのまちづくりには町として関わり合って、住民さんの生活が安定できるようなことも考えていかななくてはならないというのは私もずっと考えているところでございます。

先ほどの質問に戻りますが、現在の雇用実績ということですが、今回の高度化通信網構築に関して新たに雇用された人数は次のとおりでございます。ヴルーヴ株式会社が3名で3名全て町内者の方です。また、ヴルーヴG N O C株式会社が4名で、うち町内者が3名でございます。その他企業については、データセンターの株式会社ハイレゾが3名で3名全て町内

者の方、株式会社モーガンフィールドが1名で町内者でございます。今約10名程度の方が町内の方で雇用が決まってるっていうところで、そんなお話を聞いております。

今後また、いろいろ進出企業があれば、それに合わせて増えていくものだろうと考えておるところでございます。できるだけ地元の方たちの雇用を増やして、そして地元で定住してもらう必要があらうかと思っております。このほかに、新たに進出される企業につきましても、正確な数字は把握しておりませんが町内にお住まいの方を雇用予定と聞いております。また、これらの企業が本格的に事業を進めていく段階になった際には、さらに雇用が増えていくものと考えておるところでございます。

以上です。

○議長（井上正旦君）

松本栄一君。

○2番（松本栄一君）

約10名の方が雇用されているということで、玄海町から若い人たちが仕事がなくで高校卒業したら就職で町外、県外、出ていかれるということが結構玄海町のほうは多く感じておるので、そういった企業が出ることで若い人たちの就職してもらえる先になって、玄海町の住民が定住してくれるように進めていってほしいというのが望みです。

それと、今までの問題として、高校卒業したら就職先がないということで出ていかれてるのが一番だったと思います。そのために、原子力発電所誘致のときも雇用の場をという形で誘致されたんだと思っております。今後、町民の皆さんが就職して町内に残っていただければ、町の繁栄は安定するんじゃないかなと私は思っております。そのためにも、今後とも引き続きこの事業を成功させていただくために頑張っていきたいと思っております。

現在の日本は、様々な分野での技術の発達によって進化しています。昭和、平成、令和と時代によって最新技術が生まれています。高度化通信網構築事業（ローカル5G）によって新たな展開が期待できると考えます。

しかし、新たな事業にも電力は必要です。玄海原子力発電所は、今も稼働し社会に必要な電力を作り続けています。今後も、電力に関しては議論し、国からの正しい説明が行われると思っております。この2つの電力事業、通信事業のインフラ整備を行政、議会がバックアップし、玄海町の発展につなげなければならないと強く思い、今回の一般質問を終わります。

○議長（井上正旦君）

以上をもって松本栄一君の一般質問を終わります。

一般質問を終結いたします。

以上をもって本日の議事日程は全部終了いたしました。よって、本日の会議はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午前 9 時 31 分 散会